

伐って使うナラ枯れ対策

広葉樹が枯れる「ナラ枯れ」被害が広がっています。原因はカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）という昆虫が運ぶナラ菌への感染です。カシナガは6～8月に大量に発生し、健全木へ加害します。大量のカシナガに加害された木は樹体内で菌が繁殖し、枯死してしまいます。



ナラ枯れ被害林



カシノナガキクイムシ



穿入孔



被害木の根元付近

カシナガは体長5mm程の昆虫です。加害樹種はコナラやミズナラ等のブナ科樹木です。特に根元には大量のカシナガが穿孔し、フラス（木屑と虫糞の混じったもの）が積もっています。穿入孔は直径2mm程で爪楊枝がささるくらいです。

ナラ枯れ対策は主に伝播者であるカシナガを駆除したり、予防として樹木に殺菌剤を注入することが実施されています。しかしながら、被害木を全て駆除したり、大面積で予防することは非常に困難です。



被害木のくん蒸処理



殺菌剤注入

ナラ枯れ被害の特徴

- ① 高齢、大径木ほど被害を受けやすい(図1)
 - ② カシナガが樹幹下部に多く加害する(図2)
 - ③ 若齢、小径木は被害を受けにくい
- という特徴を持っています。

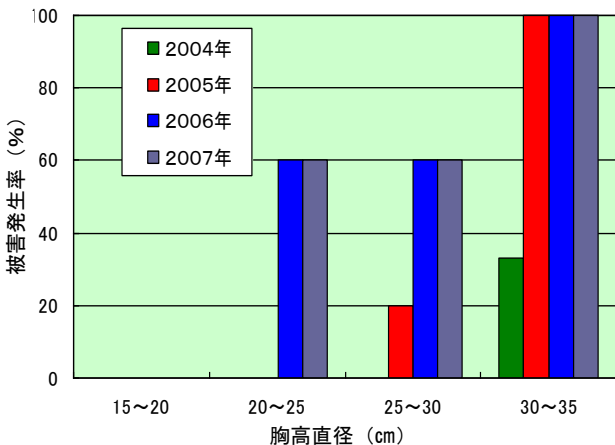


図1 胸高直径と被害発生率 (益田市)

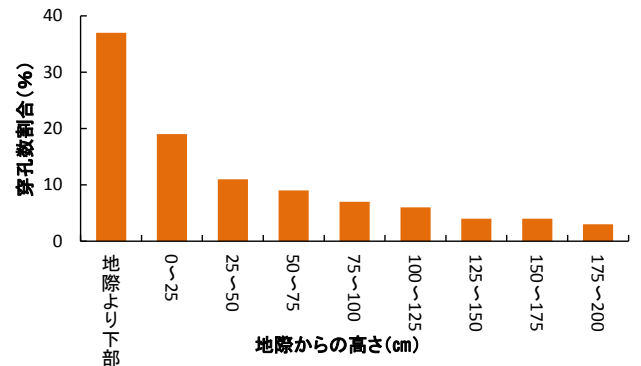


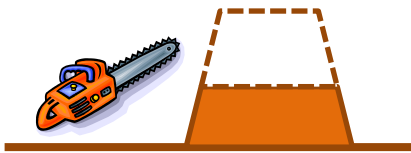
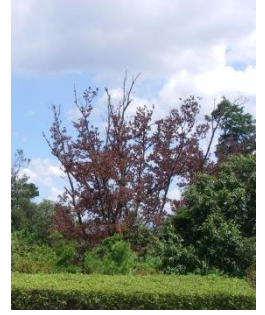
図2 樹木の地上高と穿孔数割合 (H24調査)

伐採し、萌芽更新させることで樹木や林分を若返らせ、被害を受けにくくすることもナラ枯れ対策です。

利用方法

被害木（枯死木）を利用する場合・・・駆除目的

- 材中のカシナガを駆除するため、なるべく地際付近で伐採しましょう。
樹幹下部ほどカシナガが多く生息しています。
- 薪や炭、チップとして利用する場合
カシナガを完全に駆除できます。
チップは厚さ10mm以下にしましょう。
5月下旬からカシナガが脱出するので、それまでに利用しましょう。
- シイタケ原木として利用する場合
枯死したあと年内のなるべく早い時期に植菌することで駆除効果が高くなります。



なるべく低い位置で伐採

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		カシナガが大量に発生			ナラ枯れ枯死木発生						
				枯死被害木の伐採利用期							
				ナラ枯れ発生と枯死木利用の適期							

無被害木を利用する場合・・・若い林分づくり

- 伐採は4～8月を避けるようにしましょう。
萌芽に向かない季節です。
丸太や切り株へカシナガが加害し、次の年の発生源となります。
切り株へカシナガが加害すると萌芽の妨げになります。



伐根への穿孔



伐採後の放置丸太への穿孔

被害木だけど枯死していない木を利用する場合

- ①フラスが出ている木
ほとんどは次の年に生き残りますが、枯死することもあります。
カシナガが繁殖しているのので、駆除のため伐採しても良いです。
その場合、5月中旬までの利用が望めます。
- ②フラスが出ていない、または少ない木
次の年に生き残ります。
カシナガが繁殖に失敗してるので、駆除対象にしなくても良いです。



フラスではなく、樹液の出ている被害木

①②いずれも次の年に被害をうけることはほとんどありません。
伐採後の萌芽更新については現在研究中です。
伐採せずにカシナガを駆除したい場合は当センターへご相談下さい。